授業時数の少なさを補うアクションリサーチ

高田　典幸

兵庫県立篠山産業高等学校

１．はじめに：現状と課題

本校は職業高校であり、以前は卒業後の進路は就職が大半であった。しかし、現状は、不況の影響もあり就職求人数も年々減少してきた。この状況により、四年制大学や短期大学、そして英語を出題とする専門学校への進学希望者も増してきた。ところが、本校現教育カリキュラムでは、英語は、１年生時３単位、２年生時２単位、３年生時３単位という非常に少ない単位数であり、入試英語には到底対応できない。そこで、商業科生徒については２年生時の選択科目として、３単位で英語を学習できるようになった。そして、本校商業科２年生の中でも、比較的英語を得意とする生徒が集まり、互いに切磋琢磨の授業が手探りながら始まった。

授業が始まる１学期に、さっそく大きな壁が生じた。簡単に、生徒側の問題として、①語彙不足、②英文読解速度の遅さ、③簡単な構文知識の欠如、④背景知識の乏しさ、などが挙げられた。そして、教師側の問題として、①３単位という限られた時間での英文の量をこなさなければならないこと、②板書に時間がかかる、③いかにして単語の知識を増加させるか、④速読指導はどうするか、⑤背景知識を効果的に興味深く指導するにはどうするか、などといったことが挙げられた。これらの問題が、そのまま課題となり、アクションリサーチへの導入につながった。

２．課題の設定と研究計画：

まず課題の設定として、上記にあるように、生徒側の課題としては①～④、教師側の課題としては①～⑤が挙げられたが、もう一度まとめてみると、

生徒側の課題

① 語彙・文法力をいかにして伸ばしていくか
② 今までの英文読解の読み方を脱却するにはどうするか
③ 複雑な文を構文知識を生かしてスムーズに理解するにはどうするか
④ 英文に関連した知識を増やすにはどうするか

教師側の課題

① できるだけ多くの英文に触れさせるにはどうすればいいか
② 構文を丁寧に教えるたり、訳を言うには時間がかかるがどうするか
③ 生徒が単語を覚えるにはどうするか

④ 速読力を指導するにはどうするか

⑤ 楽しく関連する背景知識を身に付けさせるにはどうするか

以上のような課題が設定されたがすべてを網羅するのは無理があった。そこで、できるだけ多くの課題をクリアするには、「パワーポイント」を使用することがベストではないかと考え、実行することにした。

だだし、生徒側の①に関しては、どうしても生徒自身が努力しなければならず、毎回、５分間の単語テストを行うことで代わりとした。生徒自分自身で単語を覚えるように言っても、なかなか積極的に覚えようとしないと感じたので、『ジーニアス英単語２５００』（大修館）を使用し、始めのセンターレベル８６５個をとにかく覚えようということになった。毎回３０個の単語を５分間でテストした後、次の単語を毎回すべて解説していき、単語帳に蛍光ペンなどでマーカーさせたり、直接アクセントを打ち直したり、必要に応じて書き込みをさせた。自分の単語テストの成果をグラフで確認できるように、簡単なグラフを作り、学期ごとに一覧表を配布した。また、英文読解で必要と思われる単語を、辞書だけではなく、単語帳の索引を利用して辞書代わりにさせ、新たにマーカーをさせるなどの指導をし、単語を覚える機会を増やした。

（生徒へ配布したグラフについては添付資料１参照）

３．授業実践：

基本的には、２学期においてはパワーポイントを使って、英文を読む際の論理力や構文力を養った。スライドの中に背景知識を拡充させることができるように、写真などを掲載し、視覚的理解を図った。また、授業後には、生徒の読解論理の考え方を確認するために、英文を文章の論理ごとに配列した簡単なプリントを配布した。パワーポイントについては「パワーポイント」のフォルダに、配布プリントについては「論理プリント」のフォルダを参照していただければ、どのように学習させたかが分かるはずである。パワーポイントの文字等にも考慮し、スライドと同じものが縮小されたプリントを配布すると、生徒たちもよく活用できていた。

また、速読の練習（ここではすばやく英文に目を通す練習）として、ロールスクロールを使用し、映画の最後のように英文を流し、それに目を通して全体を把握するようにさせてみた。その後、文字が上から１字ずつ落ちてくるように設定し、違う角度で英文にすばやく目を通させる訓練も試みた。

３学期は、実力を伸ばしていくことを考え、一度パワーポイントでの授業を離れ、プリント学習とした。単に英文だけをいつも通り与えるのではなく、それぞれの文ごとに設問を施し、いかに英文を向き合うのかに重きを置いた。

パワーポイントの例については（**「パワーポイント」フォルダ参照**）

授業後の論理を養うプリント例については（**「論理プリント」フォルダ参照**）

３学期のプリント学習の例については（**「３学期」フォルダ参照**）

４．授業の振り返りと考察：

①「ジャーナルの振り返り」ダイジェスト

- 初めてのパワーポイントを使った授業で、機械操作、スクリーン位置、解説の手順など相当戸惑った。生徒たちにもその戸惑いが伝わったに違いない。
- 今日は、写真をスクリーンに映し出した。思ったより生徒は顔を上げていた。
- どうしても、パワーポイントに凝ってしまう感がある。どうにかして、さらにシンプルなものになるよう心がけたい。
- 文字が見えにくい生徒もいた。もっと、文字の色や大きさに配慮必要。
- どうやら教室は、晴れた日はプロジェクタの文字が見にくいらしい。
- 英語の論理を理解するには、国語の力も必要だと実感した。
- だいぶん生徒たちがパワーポイントを使った授業になれてきた。もっと１歩進んだ授業はできないか。音声とか。
- 今日はスクリーンを持ってくるのを忘れたので、黒板に映写してみた。驚いたが、思ったより見やすく、黒板に書き込めるという利点があり、棚からぼたもちであった！

など

②「パワーポイント使いはじめで生徒にとったアンケート」ダイジェスト

- 面白かった。けど授業がはやいので忙しい。
- 黒板に一番近い電気は消したほうがいい。
- 写真とかあったので、理解しやすかったです。
- 良かったと思う。
- 結構背景知識とかためになった。もっと賢くならなだめだと感じた。
- 文字が、ピンクとか薄い色は見えにくい。
- 機械操作頑張りましょう。
- 速読の文字が落ちてくるやつ、気持ち悪くなった・・・

など

こうしてみると、特に生徒のアンケートからは、「パワーポイントをつかっても意味がない」とか、「もとの授業に戻してほしい」といった意見はなかったので、ある意味生徒にとっても良い刺激になったのではないかと考える。確かに、授業のスピードがかなり速くなるので、始の方は「はやすぎる」という意見が多かったが、スライドと全く同じものが載ったプリントを配布することで、すぐに問題を解決することができたし、そのプリントを使って、生徒が自分オリジナルのプリントを書き込んでいくようになったので、良かったと思う。

授業回数を重ねていくにつれて、「ここは敢えて取り上げなくて良い」というポイントが分かってくるので、その分、難しい文の解説などに時間を充てることができ、授業内容が濃くなっていくのがわかった。生徒も授業スピードに慣れ、集中力を養う訓練にもなったのでは

ないか。なによりも、授業中、顔を上げて解説を聴く生徒が増えたのがうれしい。パワーポイントを使うことで、（授業の無駄を省くことができる）→（授業にスピード感がでる）→（生徒がよい緊張感を持って授業に取り組める）→（緊張感があるので顔を上げて解説を聴くようになる）→（理解の速度が速くなる）→（他の質問や設問に時間を割くことができる）→（背景知識も充実できる）→（繰り返して解説する手間が省ける）といったよいサイクルができた。

また、問題はハード面をどれだけ普通教室で充実させるかである。まず、準備するものが、ノートパソコン、プロジェクタ、スクリーンであり、それ以外に、テキスト、辞書、配布プリント、チョーク、単語テストの用意・・・をしなければならない。授業開始に間に合わせるには、５分以上前から準備に取り掛からなければならないので、結構ハードである。授業できる状態にするのは良いとして、プロジェクタの文字がなかなか見にくいことが難点である。普通教室では、カーテンも日光遮断のものではないため、部屋が明るすぎる。また、コンセントの数もパソコン用と、プロジェクタ用に２つは必要なので、冬のストーブのコンセントを除けば、延長コードを持ってこなければならない。更に、快晴の日は、十分に暗くならず余計気を揉まなければならない。

生徒が前を見るようになった例については　（**「前を見る」ファイル参照**）
背景知識についての写真掲載のシーンでどれくらい生徒が前を向くようになったか、あるいは速読の２つのパターン（ロールスクロール）と（文字が上から降ってくる）の例については　（**「背景知識＆速読」ファイル参照**）

５．まとめと今後の課題：

この授業をする前と後では、まず生徒の英文に対する意識が変わった。今まで、１文１文をなんとなく訳して、それをつなぎ合わせていただけであったが、英文を全体を見極めてから考えるようになった。少しずつであるが、読解力や、論理力は向上したのではないか。そして、毎回行った速読練習では、スクリーンにスピードを増して英文が降ってきたり、流れてきたりするので、ゲーム感覚でかつ、神経を集中させて生徒が取り組むことができた。そして、私の授業に対する姿勢が変わった。今まで、コンピュータを使っての授業など考えてもおらず、むしろ敬遠していたが、少しずつ取り組んでいくにつれて、こんなにも手軽で無駄のない授業ができることに気づき、大変感激した。「授業に無駄がない」＝「他のことに手を回すことができる」という勝手な方程式を作ってしまったが、何よりも時間的に余裕ができることは、本当に精神的に余裕ができるものだと実感した。

今後の課題として考えられることは、

① 音声をパソコンに取り入れて、耳の力も充実させたい。
② 余った時間をどのように授業展開していくか。
③ さらに時間を余らせるためにはまだ工夫はできないのか。

という点である。①については、Media Player を使って、音声速度を早くしたり、遅くした

りすることで、速聴練習にもなるし、全体をゆっくりと聴くこともでき、更にはディクテーションの可能性も見出せると考えた。②については、今後、他の先生方の授業実践例や書物を参考にしながら指導内容に工夫をしていきたい。③については、今一番考えていることは、「和訳を先に渡して授業をしてはどうか」ということである。そうすれば、和訳に授業の重きを置く必要はなく、本当に必要な和訳だけを取り上げるとか、英文そのものを幾度でも読むことができるのではないかと考えた。普通は授業中に英文を読むのは、せいぜい１，２回であるから、せっかくの教材としてはもったいない気がする。何回も読むことで（あるいは書くことで)、英文の定着を図ることもできるかもしれない（私自身が、何度も何度も同じ英文を読んだり、書いたりして英語を定着させて行った記憶があるので・・・)。

とにかく今回、この研究をしてみてよかったと思っている。今後は同じ学校や他の学校の先生方と、共同で教材を開発できたらいいなと感じている。１歩１歩であるが、「自分でも納得のいく授業」、「いい授業」ができるように、努力していこうと決心した。